

- ◆ 委員長：中澤信夫 副委員長：金子純代（議長）
- ◆ 事務局：熊谷一樹 加藤文弥 書記：中山遼平
- ◆ 出席者（順不同）：斉藤威 小屋忠史 小屋英美里 古川龍文
- ◆ 19:05 開会 / 20:40 閉会

【協議事項】

- ◆ 本年度委員会活動について
 - ・ 事業計画の骨子は、①JSAFに届くキールボート系海外招待レースへの出場チーム選考、キールボートナショナルチーム選考・支援及び代表チーム強化の環境構築、②セーリングパーク構想に向けた環境の開拓、推進、提案活動の実践、③キールボートワンデザインクラスの活性化に繋がる協力・支援活動、④大学対抗&U25 マッチレース開催に向けての支援協力活動、⑤ネイションズカップへの代表チーム派遣及び支援。
 - ・ 魅力ある活動内容、具体的な活動予定についてスタッフ会で早期に検討する。（中澤）
 - ・ 来年3月の大学対抗&U25 マッチに向けて、9月頃から実行委員会と協力し準備を進めていきたい。（中澤）
 - ・ セーリングパーク構想や若手セーラーのキールボート参入など、活動が少しずつ浸透してきている。（斎藤）
 - ・ 和歌山セーリングセンターにはJ/24、新西宮ヨットハーバーにはJ/70が複数艇入って来ており、今後のモデルケースとして注目している。メルジェス20も含めて、それぞれコンセプトや魅力は異なるので、ワンデザインキールボートの普及に繋がるのではないか。
 - ・ J/24全米選手権では大会中セーリングクリニックが行われ、多くのセーラーが積極的に参加していた。セーリング文化に根ざした需要と供給があり、全体のレベルアップにも繋がっていた。（中澤）

【報告事項】

- ◆ 理事会（5/23）報告（斉藤）
 - ・ 昨年度決算報告では、個人の持ち出しも含め、JSAFは財政的な余裕はほとんどない状況。
 - ・ 今年度予算では、JOC、日体協、スポーツ振興くじ等の資金をベースに、オリンピック強化費用に重点が置かれた。
 - ・ ISAF競技委員長のFox氏らが、2020年東京オリンピックのセーリング会場候補地の視察を行った。（その後、江ノ島ヨットハーバーに決定。Fox氏は海面の綺麗さを重視していたようであった。）
 - ・ オリンピックの運営は地方単位の5チームで行われ、運営チームを統括するレースオフィサー4名（古谷さん、岡田さん、川上さん、岡村さん）が決定した。

- ・ レース運営及び陸上スタッフの育成が急務。マークレイヤー（マークボート担当）も募集している。具体的な育成スケジュールや支援など、次回委員会で報告したい。
- ・ ヨットを知っている人がスタッフとして携わって欲しい。

- ◆ ISAF ネーションズカップアジア予選&グランドファイナル出場報告（中山）
 - ・ 4月にバーレーンで開催されたアジア予選で月光ボーイズチームが優勝、7月にウラジオストクで開催予定のグランドファイナル出場権利を獲得した。
 - ・ アジア予選ではJSAFより大会エントリー費の支援を受けた。
 - ・ 詳細について別紙の報告書を参照ください。

- ◆ 中日韓親善レガッタ延期について（中澤）
 - ・ かねてより進めてきた親善レガッタの日本開催は、予算の目処が立たず、延期とさせて頂くことに決定。関係各国及び関係者には延期の旨を報告、謝罪した。
 - ・ 引き続き来年以降の日本開催に向けて準備、検討していく。
 - ・ 中国、韓国系企業のスポンサーを探してはどうか。（金子）

- ◆ その他
 - ・ 6月27日に岸記念体育館で評議委員会及びオリンピックセミナーが開催予定。
 - ・ JOCユニバーシアード委員会の会議への参加打診あり。（中澤）
 - ・ 委員会名簿を確認した。

- ◆ 次回委員会の開催日：未定、決定次第web公開及びメール配信します。
- ◆ 議事録作成者：中山遼平 議事録署名人：中澤信夫